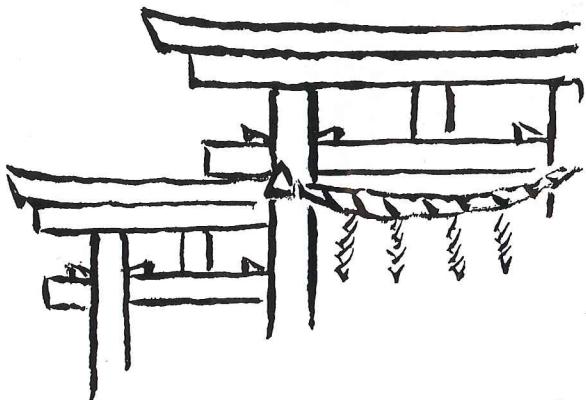


# 交通のご案内

三輪明神縁起



国



- ・J R 三輪駅より徒歩 5 分
- ・桜井駅 (J R・近鉄) よりバス、「三輪明神」下車 徒歩10分
- ・土曜・日曜・祝日 桜井駅より大神神社へ直通バスあり
- ・西名阪自動車道 天理インターより車で20分

大和国一の宮 おおみわじんじゃ  
三輪明神 大神神社

☎633-8538 奈良県桜井市三輪1422

T E L 0744(42)6633(代)

F A X 0744(42)0381

ホームページ <http://www.oomiwa.or.jp/>

大和国一の宮  
三輪明神

# おおみわじんじゃ



拝殿（重要文化財）

御祭神 大物主大神（おおものぬしのおおかみ）

配祀 大己貴神（おおなむちのかみ）

少彦名神（すくなひこなのかみ）

鎮座地 奈良県桜井市三輪一四二二

例祭 四月九日 春の大神祭

十月二十四日 秋の大神祭

## 講社・崇敬会

心のふるむこととして、限りない厚い信仰を寄せておられる方々でつくる崇敬会、報本講社を始め各団体があります。

崇敬会（すうけいかい） ご信仰深い皆様方それぞれと大神様とのご神縁を結ぶ全国的な会です。豊かな心を養い幸せで健やかな人生を送っていただきますことを目的とします。心豊かな生活への第一歩としてご入会下さい。何時でも気軽にご入会出来ます。ご家族揃ってご入会頂きますと、それぞれの誕生日には誕生祭を奉仕致します。崇敬会は皆様の信仰のサポートを致します。

## 明神講（みょうじんこう）

三輪山をとりまく氏子区域、三十三ヶ大字の産土に居住している人たちにより組織されています。

## 酒榮講（さかえこう）

当社の大神様は酒造りの神様でもあり、本社と共に摂社に杜氏の祖神を祀る活日神社があります。このご神徳を慕う全国酒造業者並びに酒を取り扱う信仰者の集まりです。

## 薬神講（やくしんこう）

薬の祖神である大物主神と少彦名神の一柱の神様のご神徳を歓仰する崇敬者で結成。製薬業、薬品販売業、医師の方等が入講されています。

## 豊年講（ほうねんこう）

県内外の篤農家を中心豊年を祈つて結集。

報本講社（ほうほんこうしゃ） 大神様の広大無辺のご神徳を仰ぐ、ご信仰深い方々の集いとして結集。同志が相寄り、十名以上で講社を結成・設立出来ます。現在約三〇〇あまりの報本講社が登録されています。崇敬会と併せて三月と九月の第四土曜・日曜日に春・秋の講社崇敬会大祭が行われます。

## 献燈講（けんとうこう）

神饌田神事や笹百合植栽等、熱心な奉仕活動をしています。「御明かし」をあげようと、神社境内に燈籠を献納された方々の集まりです。正月八日には講の祭典 献燈祭が行われます。

## 由 緒

当神社の神体山三輪山に鎮り坐す御祭神大物主大神は、世に大国主神（大国様）の御名で広く知られる國土開拓の神様であり、詳しきは倭大物主櫛麗魂命と申し上げます。古典の伝えによれば、神代の昔少彦名命と協力してこの國土を拓き、農、工、商業、すべての産業開発、方除、治病、禁厭、造酒、製薬、交通、航海、縁結び等、世の中の幸福を増進することを計られた人間生活の守護神であらせられます。

後にこの神様の御思召しにより、その御魂（幸魂・奇魂）を三輪山（三諸の神奈備）に永くお留めになり、それ以来、今日まで三輪山全体を神体山として奉斎して来ました。それ故に、本殿を持たない、上代の信仰のかたちをそのままに今に伝えている我国最古の神社であります。

この三輪の地は古く大和の文化発祥の地で、政治・経済・文化の中心地でもありました。三輪山麓を東西に流れる初瀬川の水路の終点に、日本最古の市場であります海柘榴市が八十のちまたとして開け、又南北に走る日本最古の産業道路である山の辺の道と共にこの三輪の地は交通の要所ともなつたのであります。

第十代崇神天皇の御代には、文化も全盛を極め、更に中古からは大和國の一の宮となり、二十二社の一つとして民衆の厚い信仰を集めてきました。又中世に於いては「三輪流神道」という特殊な宗教哲学が生まれ、上古以来の信仰に一つの組織と哲学を添えることになりました。

## 三 輪 山

三輪山は昔から倭青垣山、また二諸山、山岳、神山などと称され、高さ四六七メートル、周囲一六キロ、面積三五〇ヘクタール（約百万坪）の秀麗な山であります。古くから万葉集をはじめ諸々の歌集に詠われ、山そのものに神靈があお鎮まりになるという所謂、神体山として崇ばれてきました。また古来よりこのお山の中心をなすものは古杉であり、「みわの神杉」と称えられ大変有名であります。『枕草子』の中に「やしろはすぎの御社、しるしやあらむとをかし」と記され、当時は「すぎの御社」と言われて、お山の杉がいかに有名であったかがうかがわれます。

## 社 殿

当神社は古来本殿を設けず、拝殿が特に重要視されてきました。現在の拝殿は寛文四年（一六六四）、徳川四代將軍家綱公が再建したもので、その技術の優秀なため重要文化財に指定されています。西向ぎに建ち、桁行二メートル、梁行七メートルで、正面に五・五メートル一面の唐破風造の大向拝がついています。拝殿の内部正面の両側には神饌物を獻る御棚が設けられています。

この拝殿の左右に渡廊下を通じて二つの建物があります。向つて右手の御殿を勅使殿といい、その昔富中から勅使がみえた場合、この御殿で休憩したものです。又向つて左側の御殿は、勤番所といい、勅使殿、勤番所共に県の文化財となっています。

勤番所の東、拝殿の北側にあるのが神饌所で、神前におそなえする神饌一切の調理を行つ所であります。

## 三輪鳥居（三ツ鳥居）



拝殿と禁足地（神体山のうち特に神聖な場所）とを区切るところ、即ち拝殿の奥正面に建っているのが「三ツ鳥居」であります。古来より、この明神型の鳥居三つを一つに組み合わせた鳥居を通して、お山を拝んできました。

この鳥居は「三輪鳥居」とも呼ばれ当社の特色の一つとされ、いつ頃どのようにしてこの形式が出来たかは不詳ですが、社蔵文書には「古來、一社の神祕なり」と記録されており、本殿にかかるものとして、特に神聖視されて来たものであります。

鳥居は正面の高さは三・六メートル、左右の高さは二・六メートルで、左右には長さ十六間の瑞垣が設けられ、すぐれた木彫りの欄間がはめ込まれています。

三輪鳥居、瑞垣ともに昭和二十八年、重要文化財に指定されています。

## 主な祭典・神事

### 繞道祭（御神火祭）（一月一日午前一時）神様

から一年の初めにあたって淨い火を戴くお祭り。  
鑽り出された御神火を大松明にうつし、これをかかげて三輪山麓に鎮まる攝末社十八社を繞る。

### 御田植祭（一月六日）春の初めにあたり神前に おいて田作男、早乙女が農耕の所作を行ふ豊作祈願 祭。豊年講の大祭を併せて斎行。

### 鎮花祭（四月十八日）本社と狭井神社の神前に

百合根などの薬草を神饌と並びにお供えして、  
春の花の散るころ即ち人間の気の一番ゆるむ時、疫病のおこころつとするのを鎮める一千年来のお祭り。

### 秋の大神祭（十月十四日）秋の大祭で、氏子よ

りの太鼓台、子供みこしの奉納がある。

### 春の大神祭（四月八・九・十日）二千年来の伝統

を誇る大祭で、第十代崇神天皇の御代大田田根子命が三輪大神の神主として仕えられた古儀に則って行なわれる。神輿の渡御（九日）・後宴能（十日）などで広く知られている。

### 酒まつり（十一月十四日）「倭なす大物主の醸

みし神酒」と詠われた味酒二輪の酒まつりで、醸造の安全を祈願して御幣と造酒のシンボルである「しるしの杉玉」がこの日より各酒造家、醸造元へ授与される。